

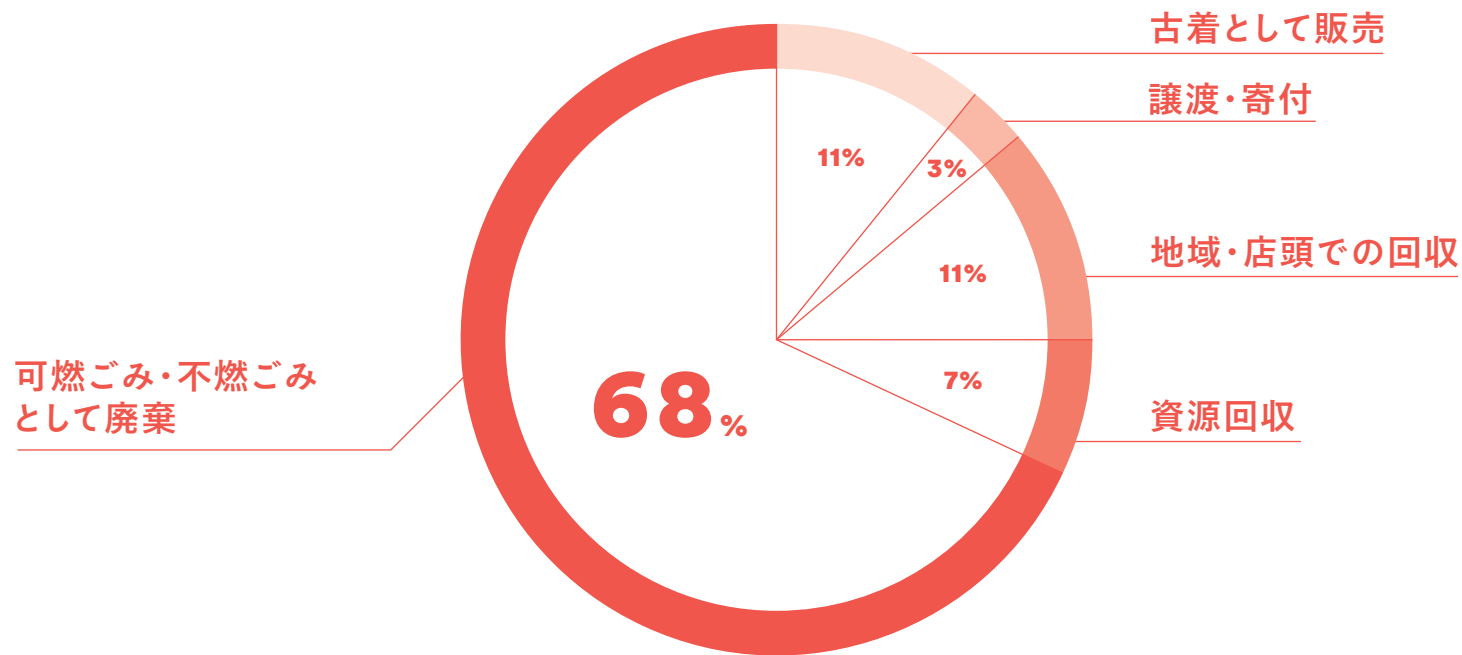


RELEASE
 **CATCH**

なぜ回収BOXをやるのか

「捨てるにはもったいない、誰か使ってくれる人がいたら嬉しい」
など、手放すことに困っている人が多い一方、燃えるごみとしてな
くなく捨てている人が多いと感じた。

服を手放す手段の分布



衣服回収ボックスリリース・キャッチを通して、
この手付かずの**68%**に着手し、
脱炭素社会の実現に貢献します。

どこを目指すのか

ごみがゴミじゃなくなる社会を
地域から、みんなでつくる。

RELEASE⇔CATCHは、不要になった衣服を集めて、
社会に貢献 をしていきます。

Step 1

RELEASEへ不要になった服を手放してもらい

Step 2

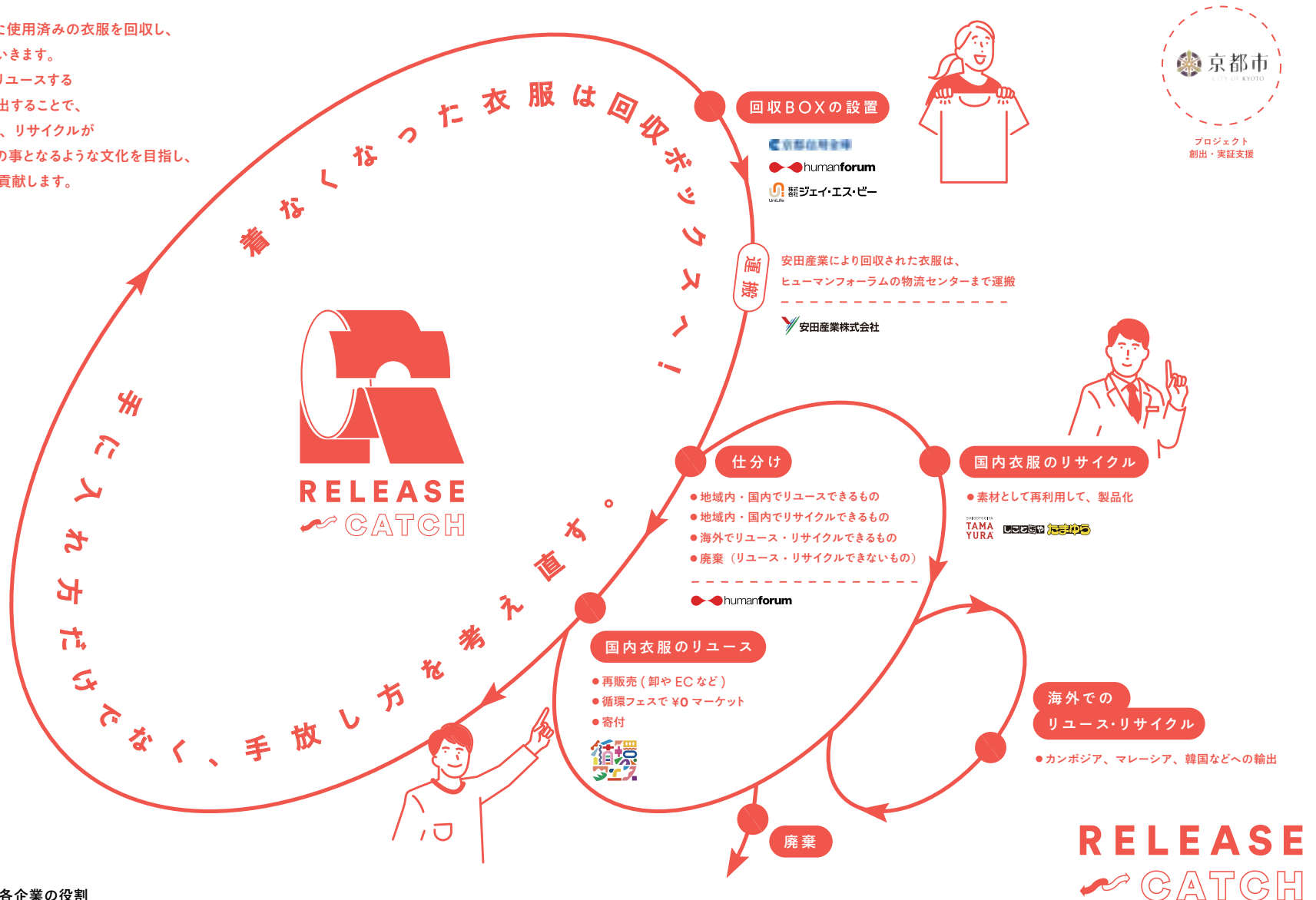
CATCHで必要になった服を受け取る

Step 3

またRELEASEへ不要になった服を手放してもらう

スキーム、各企業の役割

ご家庭で不要になった使用済みの衣服を回収し、再活用の輪を広げていきます。
可能な限り地域内でリユースするプラットフォームを創出することで、リデュース、リユース、リサイクルが生活に根差した普通の事となるような文化を目指し、脱炭素社会の実現に貢献します。



目標

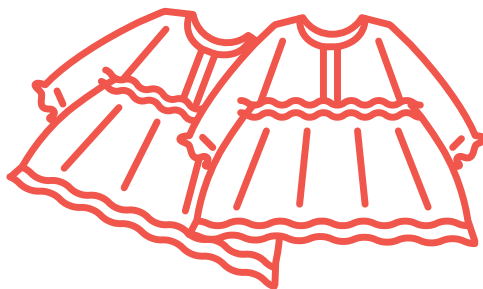
	初年度 (R4年9月~R5年2月)	今後 (R5年度)
回収拠点数	市内中心(府下)に100箇所	市内中心(府下)に300箇所 【主体別目標】 ①ヒューマンフォーラムが運営するSPINNS全店舗 全店舗53箇所(府下3箇所) ②京都信用金庫の店舗等 全店舗92箇所(府下64箇所) ③ジェイエスピーが管理する学生マンション 約50箇所
回収量	45 ^ト (18万着相当※)	360 ^{トン} (144万着相当※)
再利用量 (リユース量)	40%を古着として国内での再利用を目指す。	
ごみ削減量	40.5 ^ト	324 ^ト
CO2削減量	1,895 ^ト	15,160 ^ト

※1着を0.25kgとして計算

こんな人に使ってほしい



体型や好みの変化で
着なくなってしまった



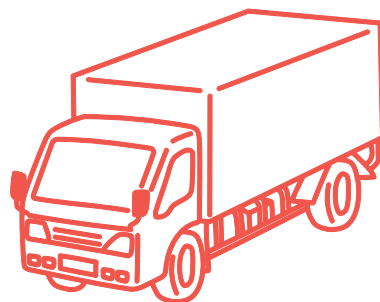
子ども服がたくさん残っている



どこまでが古着に
なるかわからない



リサイクルショップに
持っていくのが面倒

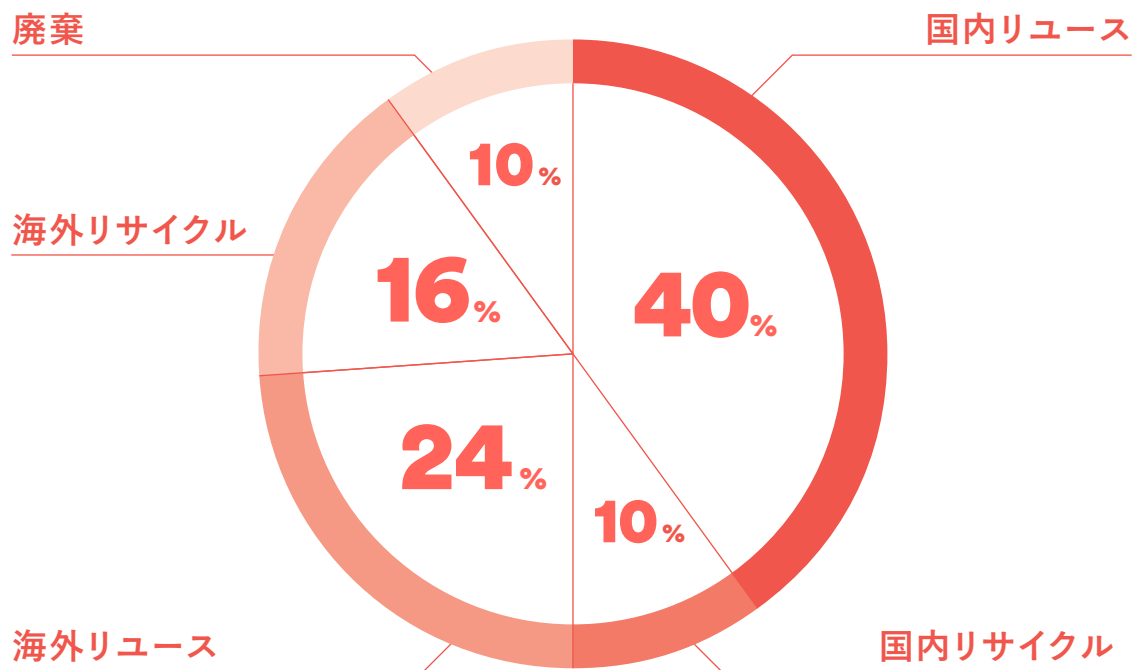


引っ越しのときに
洋服の断捨離をした



いつも必要のなくなった
洋服は捨ててしまっている

集まった服の行き先



京都市回収BOXプロジェクト、
回収した後の服の行方のイメージ(360トン/年)

集まった古着の循環の流れ



古着店、リサイクル店での
販売、再利用



循環フェスへの出品



リメイク素材
としての再利用



支援団体を通じて
困窮世帯等寄付

RELEASE⇔CATCHは、 古着として再利用を目的とした回収BOXです。

回収BOXに入れていいもの

- 衣服全般
 - 洗濯した清潔なものを入れてください
 - 貴重品などが入らないようご注意ください
 - 回収された商品の返還はできません

回収BOXに入れられないもの

- 靴、鞆、アクセサリなど
- 帽子、マフラーなど
- 下着、肌着、靴下など
- 濡れたもの、カビの生えているもの
- 汚れ・破れ、毛玉のひどいもの
- 作業着、制服
- 布団、毛布、カーテンなど
- ぬいぐるみなど

回収BOXデザイン



循環フェスの報告

(1) 日時・場所

日時:令和4年7月30日(土)10時~16時

場所:京都市役所前広場

(2) 趣旨

不用品の回収と再利用の循環の輪を広げ、「リデュース・リユース・リサイクル」が若者カルチャーとして醸成されることを目指し、市内で回収した衣服等の無料提供や、リメイクやリペアのワークショップ等を通じて、新しいライフスタイルを提唱するイベント。

(3) 主催・共催

主催:株式会社ヒューマンフォーラム

共催:京都市、京都信用金庫、京都市環境保全活動推進協会

(4) 実績

来場者数:約4,500人

回収した衣服の量:679kg

持ち帰られた衣服の量:約400kg

CO2削減量41.79kg

※11月に第2回を梅小路公園で開催予定。

※今後は、地域の公園など京規模展開の実験も始めていきます



Release ⇔ Catch プロジェクト5つの共感共働者集め

